

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の参加状況

第4学年	国語	25人	算数	25人	理科	25人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	22人	算数	22人	理科	22人
------	----	-----	----	-----	----	-----

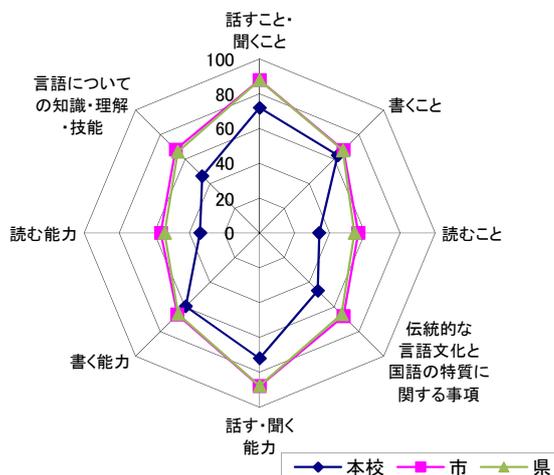
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	72.0	87.9	87.8
	書くこと	63.0	67.6	67.1
	読むこと	34.0	56.3	54.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	46.8	67.6	66.0
観点	話す・聞く能力	72.0	87.9	87.8
	書く能力	59.6	66.3	65.7
	読む能力	34.0	56.3	54.1
	言語についての知識・理解・技能	46.3	67.7	66.0



★指導の工夫と改善

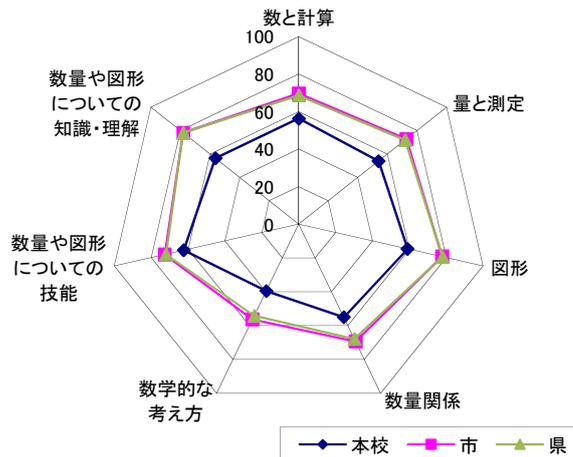
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●話し合いでの話し方の工夫に気を付けて聞くことの設問では、正答率が48%となっており、話の中心に気を付けて聞く力は十分ではないことが伺える。 ●話し合いの内容の聞き取りでは、互いの考えの共通点や相違点を整理したり、話の中心に気を付けて聞くことに課題があり、内容を正確に聞き取ることができていない。 	<p>話し合いにおける基本的な参加姿勢や、どのようなところに注意して聞き取ればよいのか、適切に話し合うために一人一人がどのようにしていくか等について再度確認することが必要である。学級で話し合いを行う場合、話し合うことの中心に気を付けて、互いの考えを整理して聞き取っていくことを子どもたちに意識させ、そのための内容や方法について指導を工夫していきたい。また、朝のスピーチなどを効果的に活用していきたい。</p>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○領域の平均正答率は、県平均より4.1ポイント下回っている。しかし、招待する相手への手紙に、大事なことをぬかす書く設問において、県の平均を8ポイント上回った。 ●招待する手紙の形式を理解し、あいさつの言葉を書くことに関しては正答率が48%と低い。手紙などの形式に合わせた表現方法の定着が十分ではない。 	<p>日常的に書くことを行い、書く力を育てていきたい。また、相手や目的に応じて、適切な表現を用いることができるように指導していきたい。また、日常的に書くことの中には、実用的な文章の試写を多く取り入れ、正確に書き写したり、基本的な形式を整えたりすることを指導し、相手や目的に応じた文章を書く力を身に付けさせていきたい。</p>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●説明文の内容理解に関しては正答率が36%と低く、文と文のつながりに注意して、文章を読み取る力に課題が見られる。 ●物語文の内容理解においては、登場人物の気持ちを想像したり、各場面の移り変わりを読み取ったりする設問の正答率が低くなっており、物語文の場面の様子を叙述を基にして読むことに課題が見られる。 ●図と話し合いの内容を関連付けた理解を問う設問では、与えられた情報から、話し合いの展開や、資料の特徴を理解することに關して、県平均を約20ポイント下回る結果となった。 	<p>授業中、説明文においては、中心となる語や文、段落相互の関係をとらえさせることで、内容を整理していくことを丁寧に指導していきたい。また、物語文を読むときには、叙述をもとに想像して読むことができるようにする必要がある。そのためには、優れた叙述を味わったり、自分の感想を明確に表現したりするなど、読む目的に応じて、特定の叙述に注目して注意深く読ませる指導を行いたい。また、叙述から理由を挙げて登場人物の心情を想像させる活動を取り入れ、叙述を正確に読むように指導を工夫していく。</p> <p>教科書に出てくる図や表を活用して、これから何のことについて話し合っていくのか、それらの資料や表が何を示しているかを丁寧に確認するなど指導を工夫したい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●第2・3学年配当漢字を正しく読む・書くことにおいては、正答率が非常に低い。正しい漢字の読み書きの定着に大きな課題がある。 ●言葉の学習において、県の平均を19.2ポイント下回る。反対の言葉、ローマ字による書き方、指示語の使い方を問う設問の正答率が低い。 	<p>漢字の読み・書きの指導では、当該学年、その前の学年までに学習した漢字を宿題等で練習することを継続していく。熟語や意味と関連付け、普段から日常的に意識して使えるよう指導していきたい。ローマ字に関しても同様に、地名や固有名詞など日頃目にする単語を折に触れて取り上げ、ローマ字で書くような指導を工夫したい。</p> <p>語彙力を上げる学習として、ことわざ、慣用句等、日常的な言葉について、教科書の中での使用法の確認と、その言葉に関連した派生語を取り上げ、意識的に指導していきたい。</p>

宇都宮市立上河内西小学校第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.3	69.6	68.7
	量と測定	54.0	72.8	72.0
	図形	59.0	77.8	78.0
	数量関係	55.0	69.4	67.8
観点	数学的な考え方	39.5	56.3	54.2
	数量や図形についての技能	62.4	72.7	72.0
	数量や図形についての知識・理解	56.4	78.2	78.1



★指導の工夫と改善

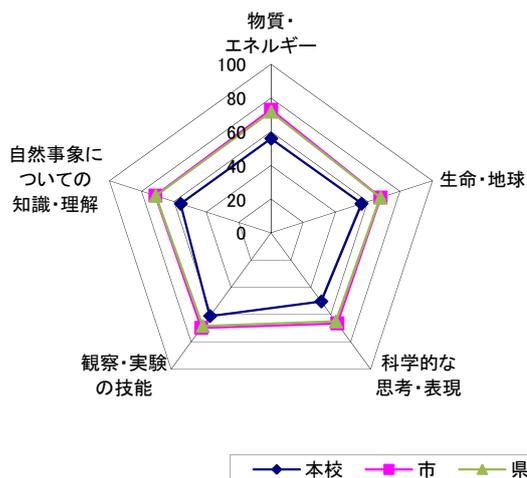
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○整数のかけ算3位数×2位数や、同分母の真分数の計算において、県の平均を上回っている。</p> <p>●整数のひき算や、かけ算やわり算については、計算に関しての定着に課題がある。</p> <p>●特に、()を用い式の意味を場面と結び付けること、余りを切り上げて処理すること、往復料金から電車かバスのどちらに乗ったのか、理由を説明する設問においては、正答率が27%と低く、県の平均の46.1%を大きく下回った。理由を説明する記述式の問題においては、数学的な考え方に課題があると考えられる。</p>	<p>基本的な計算問題については、再度その意味を確認するとともに、宿題等で繰り返し習熟を図りたい。</p> <p>説明することに関する指導では、問題解決の際に、既習事項を基に見通しをもち、筋道を立てて考える活動の工夫をしていきたい。また、解決した過程を振り返る活動を充実させることで、児童自身が算数のもつ系統性や客観性、有用性などのよさを実感できるように指導を工夫していく。</p>
量と測定	<p>●ある時刻から一定時間前の時刻を求める設問においては、平均正答率が48%と非常に低い。時計の基本的な読み方に課題が見られる。</p> <p>●身近にあるものの重さを推察する設問においては、200gに対する重さの感覚の理解が不十分である。</p> <p>●電車とバスの乗車時間を求め、比較する設問では、選択肢1を選んだ児童が32%おり、県の正答率を24%を上回っている。到着時刻だけで比較・判断したためと考えられる。問題解決のために、必要な情報を選択することに課題がある。</p>	<p>量や測定に関する感覚を育てるために、身近にあるものも体感を大切にさせながら、おおよその重さや長さなど、具体物に置き換える活動を日常的に繰り返し取り入れていきたい。</p> <p>時刻と時間の指導では、日常生活での行動や経験を対応させて、具体的な場面で時間の経過をつかむことができるようにしたい。そのために、実際に時計を動かしてみる活動や、時計の針の絵をかいたり、図や表に情報をかき入れたりしながら時間の経過を考える活動等の工夫をしていきたい。</p>
図形	<p>○正三角形の作図の設問において、県の平均を1.8%上回り、同程度の結果となった。</p> <p>●二等辺三角形の定義を問う設問では、図形の性質についての理解に課題が見られる。</p> <p>●球の半径と直径の関係を考える設問で、正答率が44%と低い。球の半径と直径の関係の理解については課題がある。</p>	<p>円の直径や球の半径や直径に関する基本事項の指導は、引き続き理解を深める対応が必要である。宿題等で図形の基本問題に取り組み、習熟を図りたい。</p> <p>また、正三角形の作図においても、正確にコンパスを使うことが難しい児童も多い。今後基本的な道具の使い方を理解させ、習熟を図りたい。</p>
数量関係	<p>●わり算の文章問題を表した図に関する設問のように、式と文章や図を関連付けて考えるような思考力を要する設問の正答率が低く、問題文の示す数字や数直線などの意味を読み取り、式に表すことに課題が見られる。</p> <p>●棒グラフの読み取りの設問では、条件に該当する項目をグラフから正確に読み取ることに課題がある。</p>	<p>式の指導では、具体的な場面を式に表す活動や、式を通して場面などの意味を読み取る活動を重視していきたい。その際、式と言葉、具体物、数直線や図などを相互に関連付ける活動を意識したい。自分の考えた式を図や数直線を用いて説明する活動や、友達の式の意味を考える活動などを繰り返し指導し、式の意味を読み取る能力を身に付けさせたい。</p> <p>棒グラフなどの資料を適切に読み取れるように、表題、縦軸、横軸が何を示しているかについて丁寧な確認を今後行っていく。その上で、問題が何を聞いているかが確実になるように、問題の重要なポイントに線を引かせるなど、工夫した指導を継続したい。</p>

宇都宮市立上河内西小学校第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.9	73.1	71.8
	生命・地球	56.1	67.9	67.8
観点	科学的な思考・表現	50.4	66.5	65.0
	観察・実験の技能	61.1	69.7	68.4
	自然事象についての知識・理解	55.9	71.6	71.4



★指導の工夫と改善

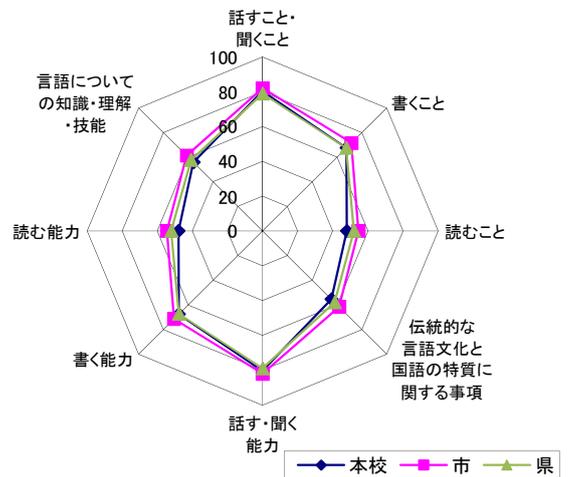
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○磁石の性質や、ソケットを使用しなくても豆電球に明かりをつけることに関する設問で、県の平均を上回った。基本的な磁石の性質や、豆電球の仕組みについて理解が図られている。</p> <p>●虫眼鏡で光を集めたときの明るさや温度の違いや、豆電球の点灯の有無から、回路の様子を観察することの理解が十分ではない。学んだ知識を活用する場面で、科学的な見方や考え方にに基づきながら正しい結論を導き出すことに課題がある。</p>	<p>授業において、実験などの具体的な操作を通して学習内容を理解させ定着を図っていく。さらに、知識の活用を図る実験を意図的に設定することで、児童の主体的な問題解決を促す。また、体験活動を多くし、実感を伴った理解を定着させるように工夫した指導を心がけていく。</p> <p>学習した身に付いた知識を定着させるため、宿題や朝の学習時間、授業の最初の時間を利用し、復習として問題に繰り返し取り組ませたい。</p>
生命・地球	<p>○身近な自然の観察に関する虫眼鏡を正しく使うことの設問では、県の平均を大きく上回っている。また、太陽と地面の様子に関する方位磁針の正しい使い方の設問では、県の平均を上回った。虫眼鏡や方位磁針の適切な操作の技能が身に付いている。</p> <p>●昆虫に適した飼育の仕方や、身の回りの生物の生息場所についての理解が低い。また、身の回りの生物が、なぜその場所で生息しているのかを考える設問では、生物の生息の状況から判断して回答することが難しかった。観察したことへ興味をもち続け、課題を解決していこうとする考える力に課題が見られる。</p>	<p>今後も、観察・実験器具を使うことへの留意点を徹底させるために、その目的と機能を明らかにし、視聴覚教材などを有効に活用して分かりやすい説明を行うように心がけ指導していく。また、使用する機会を多くしていきたい。</p> <p>授業中のみならず、観察する機会を多くするなど、学習内容の理解を図る場を設定していく。身の回りの生物や自然の観察に進んで取り組ませるために、児童の主体的な問題解決を促すとともに、生物の生息の仕方を予想させ、時間をかけて観察させるようにしていきたい。興味・関心をもった生物や自然の事象などに、継続した観察ができる力を育てていきたい。</p>

宇都宮市立上河内西小学校第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	80.3	82.0	78.9
	書くこと	67.6	71.5	67.4
	読むこと	48.0	54.6	52.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	55.5	61.7	58.1
観点	話す・聞く能力	80.3	82.0	78.9
	書く能力	67.6	71.5	67.4
	読む能力	48.0	54.6	52.1
	言語についての知識・理解・技能	55.8	61.3	57.7



★指導の工夫と改善

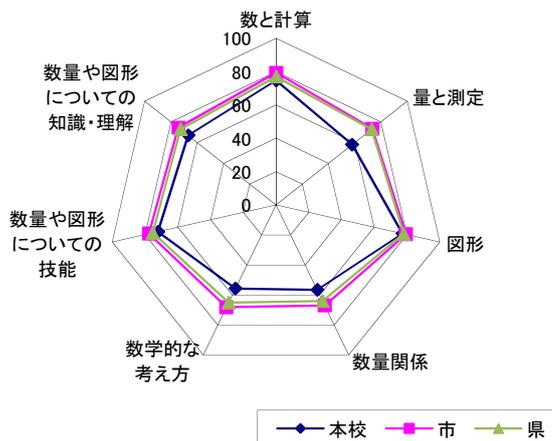
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○県の平均を上回っている。特に、話の内容についての聞き取りにおいては、正答率が9割以上となっており、話の中心に気を付けて聞く力は育っていると思われる。</p> <p>●話し合いにおける司会者の工夫を選択する設問については、正答率54.5%と低く、県の平均を下回った。内容については聞き取ることができても、話し合いを適切に進行するための方法について課題がある。</p>	<p>話し合いにおける司会者、提案者、参加者等の役割や、適切に話し合うための方法等について再度確認することが必要である。学級での話し合いを行う場合には、立場や意図を明確にしながら計画的に話し合うということを子どもたちに意識させて、そのための内容や方法について指導を工夫していきたい。</p>
書くこと	<p>○県の平均を上回っている。自分の意見をきちんと述べることは8割以上の正答率となっており、2段落構成で書くことに関しても県の平均を大きく上回った。</p> <p>●指定された長さで書くことに関しては正答率が54.5%と低い。また、自分の意見に対して、適切な理由を書くことに関しても課題がある。</p>	<p>書いて表現するという活動を日常的に行い、書く力を身に付けさせる。その際、自分の考えを明確にするために、理由や事例が適切かどうかをよく考えて書くことを指導するとともに、高学年での指導事項「事実と感想、意見などを区別して目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする」という力につなげられるようにしたい。</p>
読むこと	<p>●領域の平均正答率は、県平均より4.1ポイント下回っている。特に、物語の内容理解に関しては正答率が43.2%と低く、登場人物の気持ちや場面の様子を、叙述を基に想像して読む力に課題が見られる。</p> <p>●説明文の内容理解においては、段落相互の関係について適切なものを選択する問題における正答率が低くなっており、説明文の構成に注意しながら内容を理解することに課題がある。</p>	<p>授業において、物語などを読むときに、場面の様子を叙述から正確に読み取る活動や、暗示的に表現されているものも含め、叙述から理由を挙げて登場人物の心情を想像させる活動を意図的に行い、叙述を丁寧に正確に読む力を身に付けるよう指導を工夫する。説明文においては、中心となる語や文をとらえさせるとともに、接続語等にも注意しながら内容を整理して理解することを丁寧に指導していきたい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○慣用句の使い方については正答率が8割を超えており、県の平均を大きく上回った。また、漢字辞典の使い方や正しい漢字の使い方を選択する設問においても正答率が高い。</p> <p>●漢字を書く問題については3問とも正答率が非常に低く、3・4年生で学習した漢字の知識の定着に大きな課題がある。</p>	<p>ことわざ、慣用句については、朝の会のスピーチのテーマ等にも取り上げ、意識的に指導してきたことが結果に表れていると思われる。今後も、折に触れて取扱い、子どもたちが慣れ親しめるよう指導を継続したい。漢字の学習については、新出漢字のみならず、既習の漢字についても宿題等で練習させていくとともに、日常生活のなかで、既習の漢字を正しく使いながら身に付けていくことも意識して指導にあたりたい。</p>

宇都宮市立上河内西小学校第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.8	79.3	77.1
	量と測定	58.0	73.4	72.9
	図形	77.3	79.4	78.0
	数量関係	56.6	67.0	64.0
観点	数学的な考え方	55.8	68.2	65.1
	数量や図形についての技能	72.1	77.7	75.4
	数量や図形についての知識・理解	66.9	74.5	72.8



★指導の工夫と改善

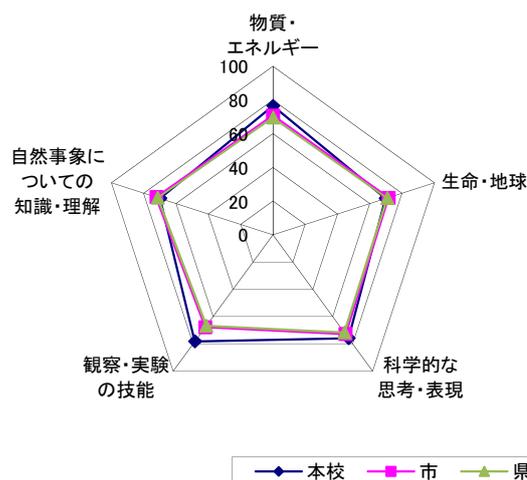
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○整数のかけ算やわり算については、県の平均を大きく上回った。基本的な計算問題6問における平均正答率は78.8%で県の平均とほぼ同程度である。計算に関してはある程度の定着が見られる。</p> <p>●数直線上に示された分数を答える設問においては、正答率が54.5%と低く、県の平均を大きく下回った。分数のたし算についても正答率が下回っていることから、分数についての理解に課題があると考えられる。</p>	<p>分数については、再度その意味を確認するとともに、基本的な計算について宿題等で習熟を図りたい。今回の設問では、同分母の分数の計算であったが、5学年では異分母の分数の加法及び減法も学習しているため、それらも含めてくり返し指導したい。</p>
量と測定	<p>○角の大きさの見当をつける設問においては、平均正答率が86.4%で県の平均とほぼ同程度である。</p> <p>●1㎡が何cm²であるかを答える設問においては、正答率が27.3%と非常に低い。面積の単位換算に課題が見られる。</p> <p>●1枚の切手の面積を推察する設問においては、50cm²と解答している児童が多く、面積の大きさについての感覚に課題がある。</p>	<p>面積の単位については、単位面積の1辺の長さを単位換算することと関連付けて、再度丁寧に指導をし、考え方を身に付けさせたい。単位面積の1辺の長さについては、しっかり覚えさせるように指導したい。また、面積の大きさについての感覚は、日頃から様々な場面で、身の周りの物を単位を用いて表す活動を取り入れ、実感を伴って単位の大きさが理解できるよう指導の工夫を図りたい。</p>
図形	<p>○領域の平均正答率は77.3%で県の平均とほぼ同程度である。特に、直方体における平行な面を問う設問では正答率が100%となっているなど、図形についての理解は一定の成果が見られる。</p> <p>●ひし形の作図をする設問については、正答率が54.5%と低い。作図の技能については課題がある。</p>	<p>作図をするためには、コンパスや分度器などを正確に使う技能と、描きたい図形の特徴をしっかりと理解した上で必要に応じてコンパスや定規を適切に使う能力が求められる。本学級の児童は、分度器等を正確に使うことができない児童も多い。基本的な道具の使い方を再度確認するとともに、宿題等で作図を課して習熟を図りたい。</p>
数量関係	<p>○分配法則について理解しているかを問われる設問と折れ線グラフを読み取る設問については県の平均を上回った。しかし、正答率が低いため、成果が見られるとは言えない。</p> <p>●領域の平均正答率は56.6%と県の平均を大きく下回った。特に文章問題における四則混合の式の立式や伴って変わる2つの数量を式で表す設問など、思考力を要する設問についての正答率が低く、問題文の示す数字の意味を的確に読み取り、式に表すことに課題が見られる。</p>	<p>問題文に書かれている情報をきちんと読み取らず、数字のみで立式してしまう児童が多い。まずは、問題文をしっかりと読み、得られる情報を正確に理解する力を育てたい。そのために、文章問題では、「分かっていること」と「聞かれていること」に線を引いて、問題を理解してから四則計算のどれを使って解いたらよいかを考えることを徹底し、習慣化させたい。</p>

宇都宮市立上河内西小学校第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	76.6	70.8	69.5
	生命・地球	69.7	71.5	70.8
観点	科学的な思考・表現	75.9	72.8	71.7
	観察・実験の技能	78.2	67.8	66.8
	自然事象についての知識・理解	69.9	72.3	71.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○領域の平均正答率は県平均より7.1ポイント高い。</p> <p>○すべての内容において、県の平均を上回っているが、特に、「電気のはたらき」に関する設問では県平均よりも14.4ポイント高く、乾電池のつなぎ方や、光電池が電気を起こすはたらきと光の当たり方の関係についての理解に成果が見られる。</p> <p>●金属は温められると体積が大きくなること、熱せられた水が上方に移動することを問う設問においては、どちらも正答率が68.2%となっており、県平均を大きく下回った。水の温まり方や温度による金属の体積変化についての知識の定着に課題が見られる。</p>	<p>金属を温めたときの体積変化の学習については、グループごとに実験を行い、その様子を観察させたが、知識としては定着していなかったことが結果として表れた。実験を行ったら、結果を記録させるとともに、結果から分かることについてしっかり考えさせ、知識としての定着を図るように指導していくことが必要である。</p> <p>また、水の温まり方の学習では、水を入れたビーカーの底のはしに、水の動き方がわかるようなものを入れてアルコールランプで熱し、その様子をじっくり観察させることが大切である。その際、温められた水の動きを矢印で記録するなど、実験結果の書き方を工夫させることで、その動き方を理解させるとともに、学級全体で話し合い、水の温まり方についての理解を深めることが必要である。</p>
生命・地球	<p>○「天気の様子」に関する設問においては正答率が高く、3問の平均正答率は89.4%と県平均よりも17.5ポイント上回っている。気温の測り方や、気温を折れ線グラフに表すことなど、技能の面で一定の成果が見られる。</p> <p>●領域全体の正答率は、県平均とほぼ同程度である。方位磁針から月の出ている方角を答える設問や観察してから1か月後の同じ時刻に見える月を選択する設問における正答率が低く、月に関する知識の定着に課題が見られる。</p>	<p>月の動きや形についての学習では、実際に半月や満月を観察することを通して、月の位置が時間の経過に伴って変わることを捉えさせる。主に家庭での観察になるため、結果を学級全体で共有し、考察することが大切である。どの形の月でも太陽と同じように動くこと、月の満ち欠けは、約1か月かけて元にもどることなどは、観察したことをノートにまとめながら知識として定着させていくことが重要であるとともに、日頃から月の様子を観察するように声かけをし、興味をもたせるようにしていくことも大切である。</p> <p>方位磁針については、再度指導し、その使い方を理解させることが必要である。</p>

宇都宮市立上河内西小学校第4・5学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

＜5年教科等に関する質問＞

＜＜傾向及び今後の重点＞＞

○教科等の学習に対する意識を問う設問においては、ほとんどの教科等において県と同等か、県を上回る肯定割合を示している。特に、理科・社会・音楽・図工・家庭科に関しては、その割合が高く県を大きく上回った。科学や歴史の内容を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのが好きであると答えている児童の割合も高く、興味・関心の高さがうかがえる。

●算数に関しては、好きと回答した児童が68.2%、授業の内容が分かると回答した児童が77.3%、問題のとき方や考え方がわかるようにノートに書いていると回答した児童が68.2%といずれも低く、県の平均を下回った。授業及びノート指導を再度見直し、指導の改善を図る必要がある。

＜5年学習や生活に関する質問＞

＜＜傾向及び今後の重点＞＞

○授業中の発表や話し合いに関する設問においては、いずれも肯定割合が高く、県の平均を大きく上回っている。言語活動の充実をめざした取り組みにおいては、一定の成果が見られた。

●授業における目標の提示、最後のふり返りについては肯定割合が低く、県の平均を下回った。授業においては、それぞれ行ってきたつもりだが、児童はそれを、目標の提示、振り返りと認識していなかったことが課題として挙げられる。児童が、きちんと意識できる形での目標提示や振り返りを行うことができるよう授業を改善していく必要がある。

●家庭での学習に関する内容では、ほぼ全ての設問において県の平均を下回っている。特に「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」の設問に関しては、肯定率が40.9%と最も低く、学校ではテスト直しをするものの、家庭での見直しや復習はしていない児童が多いという実態が浮かび上がった。宿題の与え方や自主学習の内容等について工夫していく必要がある。

＜4年学習や生活に関する質問＞

＜＜傾向及び今後の重点＞＞

○学習や生活に関する多くの質問において、4年生の肯定的回答の割合は、県平均と比べてほぼ同程度か、少し下回る。しかし、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組みするようにしている」、「勉強していて、おもしろい・楽しいと思うことがある」、「むずかしい問題にであうと、やる気がでる」、「グループなどでの話し合い自分から進んで参加している」と回答した児童の割合は、県平均を大きく上回る。これより、家庭学習は着実に行われており、授業に意欲的に参加している様子が伺える。

●「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」、「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている」、「授業では、授業の目標がしめされている」と回答した児童の肯定割合が県平均を大きく下回った。授業の目標を明確に児童へ伝え、学ぶ内容に興味関心をもてるような教材研究を行い、授業の中で一人一人が活躍できる場をあたえられるような授業構成の工夫を図っていききたい。また、テスト返却後の活用法を児童に伝えるとともに、家庭へも周知していききたい。

●「学校のきまりやマナーを守っている」と回答した児童の割合は、県平均を大きく下回る。学校全体の指導目標を具体化し、それらを学級において児童と話し合い、守るべききまりやマナーについて共通認識を図る。それを基に学級経営を進めていくようにする。

●「授業の準備は自分でしている」、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」、「自分には、よいところがあると思う」、「ふだんの自分の生活を『楽しい』と思う」、「家の人と学校のできごとについて話をしている」、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」、「地域や社会で起こっている問題や出来事

＜4年教科等に関する意識＞

＜＜傾向及び今後の重点＞＞

○各教科等の学習が好きと回答した4年生児童の割合は、ほとんどの教科において県平均に比べて高い。

●各教科等の学習に対する必要感の割合は、ほとんどの教科等において県平均と比べて高い。各教科等が好きな割合に比べて必要感の割合が高いことから、教科独自の学ぶ楽しさと学ぶ意義を実感させる指導に努めていく必要がある。